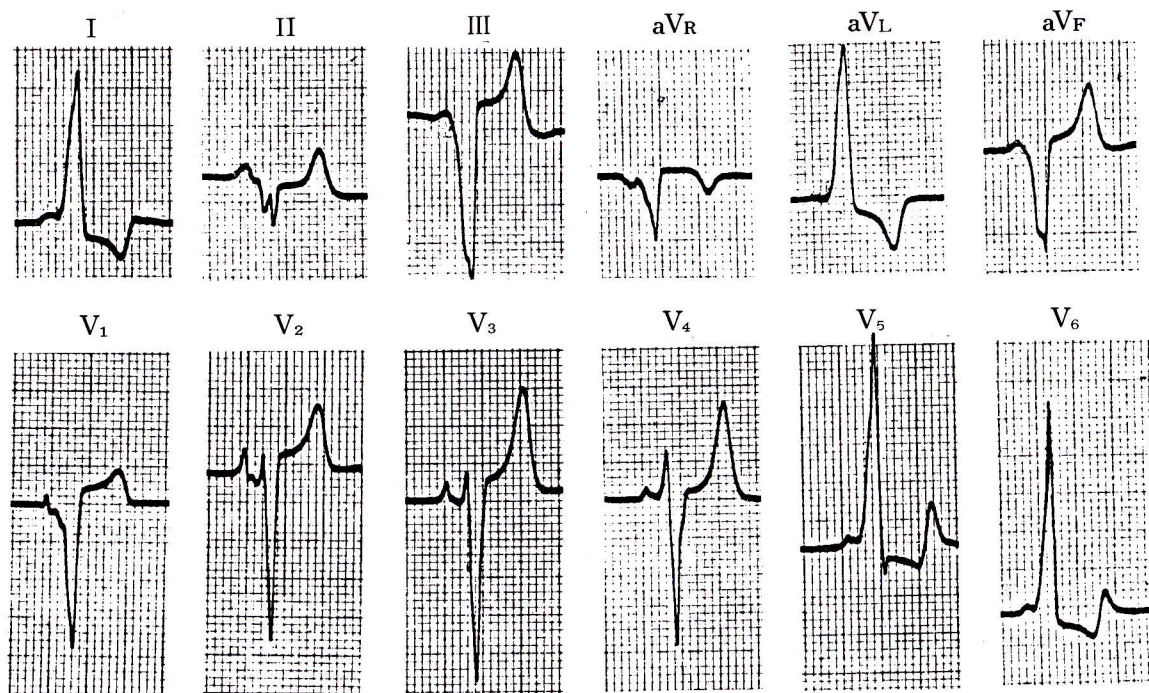


症例 34

●24歳 女

●僧帽弁狭窄兼閉鎖不全症，三尖弁閉鎖不全症の患者である．



1) 幅広いQRS波と広範なST, T異常を認めるが何か.

WPW症候群 (B型)

PQ間隔は0.12秒以下, QRS幅は0.12秒以上, QRS波起始部に δ 波がみられる. V_1 の δ 波は下向きでQRS波がQSパターンであるためB型のWPW症候群である.

左軸偏位, 下壁梗塞 (II, III, aV_F のQSパターン), 左室肥大の基準を満足するが, WPW症候群な

のとらない. V_5, V_6 のST低下は2次性変化の可能性が強く, これから心筋障害の有無を判断してはいけない(症例64参照). $V_2(V_1)$ に尖鋭なP波がみられ, 右房負荷の存在が示唆される (WPW症候群であってもP波の診断基準は適用してよい).

MEMO

〈WPW症候群の分類〉

WPW症候群は V_1 の δ 波が上向きにでるA型 (V_1 でRパターン) と, 下向きにでるB型 (V_1 でQSパターン) に大別される.

A型では異常伝導路を通る刺激が左室に入り, 一方B型では右室に入ると考えられているが, 臨床的には差がない. また, A型, B型いずれにも分類できないものもある (WPW C型, V_1 でRSパターン; 右図).

WPW症候群では心室内伝導が正常と異なるため, QRS波, T波に関するすべての診断基準は適用することができない.

WPW症候群C型

